

山田は友達と二人でファミリーストランに入った。扉を開けると、「いらっしやいませ！」というウエイトレス達の声が店内に響いた。お昼のランチタイムで活況のいい店の出入り口には、順番待ちの客が溢れている。

「二人なんですけど、どれ位待ちますか？」鈴木が案内係に尋ねた。

「おそらく二、三十分はお待ちいただくことになると思いますが・・・」

「二、三十分ですか、構いません。待ってます」

「恐れ入ります。それでは、お名前をお願いします」

「山田です」

「山田様ですね。お席は禁煙席、喫煙席どちらがよろしいですか？」

「禁煙席をお願いします」

「はい、わかりました。ではお名前をお呼びするまで暫くお待ちください」

イスに座って順番を待っていると、およそ二十分後によく「山田」の名前が呼ばれた。

「二名でお越しの山田様、山田様！ たいへんお待たせいたしました」

席へ案内されると、二人はすぐメニューを広げ、注文の品を決めた。

「ご注文はお決まりでしょうか？」

「はい。まぐろの山かけ丼と、なすのグラタンと、ミネストローネと、夏野菜のサラダ、それにウーロン茶、アイスコーヒー、抹茶パフェ、洋梨のタルト、以上をお願いします」

「申し訳ありません。洋梨のタルトは本日終わってしまったんです。今ごいますのが、いちごのショート、ミルフィーユ、モンブラン、アップルパイになります」

「では、ミルフィーユで」

「ミルフィーユですね、かしこまりました。それと夏野菜のサラダのドレッシングは何にいたしますか？」

「何の種類がありますか？」

「和風、イタリアン、中華、フレンチ、ゆずドレッシングの五種類がございます」

「そうですか。ではゆずドレッシングをお願いします」

「はいかしこまりました。お飲物は食前食後のどちらにいたしますか？」

「食前をお願いします」

「かしこまりました。それではご注文を繰り返します。まぐろの山かけ丼がお一つ、なすのグラタンがお一つ、ミネストローネがお一つ、夏野菜のサラダがゆずドレッシングでお一つ、ウーロン茶がお一つ、アイスコーヒーがお一つ、抹茶パフェがお一つ、ミルフィーユがお一つ、以上でよろしいでしょうか？」

「はい、結構です」

注文を終えてから数分後、ウーロン茶とアイスコーヒーがテーブルに運ばれてきた。